

青森県総合社会教育センター主催事業報告

ボランティア関係機関職員養成講座

令和5年7月7日(金)13:00~15:30 県総合社会教育センター第1研修室 受講者数138名

1 趣旨

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的とした対話・参加型の講座を開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す。

2 内容

【講義】「今だから、ボランティアそもそも論」

社会福祉法人 大阪ボランティア協会

常務理事・事務局長 永井美佳氏

【パネルディスカッション】「～今だからこそ、ボランティアの魅力発信！～」

〈コーディネーター〉

常務理事・事務局長 永井美佳氏

〈パネリスト〉

NPO法人 日本人財発掘育成協会

事務局長 大鷹依子氏

学生団体 レスター 前代表 須藤優海氏

ひろさきボランティアセンター

ボランティア支援員 鶴見智之氏



3 講義要旨

- ボランティア活動の概念には「自発性」「社会性」「無償性」があります。
- ボランティア活動に窮屈なイメージが伴いがちだが、思いつき、独創的な発想、自分の好みや関心で始めていいものです。ボランティア活動は、気軽な気持ちから夢や願いを共有するたくさんの仲間と出会えたり、社会の仕組みを柔軟に創造的に変革していく可能性を秘めています。
- ボランティア活動へ一步踏み出そうとしている人には、適切な誘因の提供を行うことで活動機会を与え、「できた」という実感と「やる気」を高めてあげることが大切です。
- ボランティア活動を行うにあたり、思い (Will・Wish)、ニーズ (Needs)、技量 (Can) の要素が重なり合ったところに事業の芽 (Seeds) があります。思いをカタチにして、行動に移してみましょう。

4 受講者の感想から

- ボランティアへの考え方や動機への考え方方が変わった。ボランティア＝奉仕活動という先入観をもっていたが、今回の講演でしっかりと整理することができた。
- ボランティアをコーディネートする際の心構え、役割について学ぶことができた。
- 人と人とのつながりが大事であること、実際に自分が動き、体験することがボランティア活動になることを学んだ。
- 被災したリンゴ園の復興に関わって、長い期間、遠方からもボランティア参加者が来ていたと聞き、びっくりした。発表者の『思い』が伝わってきて、刺激になった。

本講座では、ボランティア活動の意義や魅力、はじめての方でもボランティア活動へ第一歩を踏み出せるヒントやバリア（障壁）を除く方策等について学ぶことができました。

また、パネルディスカッションでは、3団体から活動実践を報告して頂き、何のために、どのような思いで活動しているかなど深くお話をいただいたことで、受講者の今後のボランティア活動へ結びつく有意義な機会となりました。

